

第 7 章 目標指標の設定と進行管理

1. 目標指標の設定

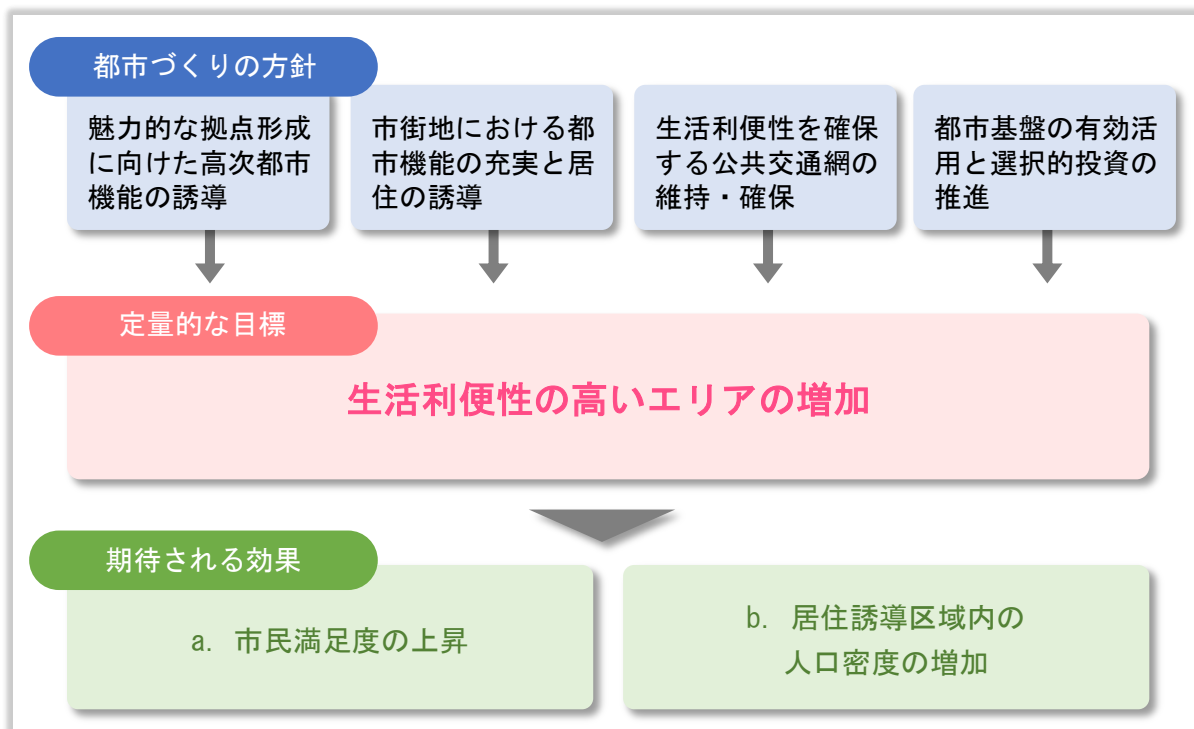
(1) 目標指標の設定について

立地適正化計画では、計画の必要性や妥当性を客観的かつ定量的に提示するとともに、PDCAサイクルを適切に機能させる観点から、本計画により実現しようとする「定量的な目標値」を生活利便性、行政運営等の面から設定するとともに、目標達成により期待される効果を定量化することが求められます。

本計画では、以下のとおり「定量的な目標値」の設定と「期待される効果の定量化」を行い、計画の進行管理を行います。

(2) 定量的な目標と期待される効果

定量的な目標と期待される効果は、都市機能誘導・居住誘導を実現するための施策の展開による、都市づくりの方針の達成状況を分析・評価するため、以下のとおり設定します。



都市機能の誘導や公共交通の充実により、生活利便性の高いエリアが増加していることを確認します。

定量的な目標	現状値 (H29年)	目標値 (H39年)
生活利便性の高いエリアの増加	512ha	592ha

※生活利便性の高いエリア：医療（病院・診療所）・福祉（高齢者福祉施設）・子育て（幼稚園・保育園）・商業（スーパーマーケット）・金融（窓口）に関する生活利便施設及び基幹的公共交通路線（路線バス 30本以上/日）の徒歩圏（バス停は半径 300m、その他は 800m）の全てを満たす区域。

生活利便性の高いエリアが増加することで、効果として市民の生活に対する満足度の上昇につながっているかを確認します。

期待される効果	現状値（H29年）	目標値（H39年）
a. 市民満足度の上昇	48%	67%

※市民満足度：成田市市民満足度アンケートより、立地適正化計画に関連する以下の3項目の満足度（満足・やや満足）の平均値。

- ・住みやすく快適な生活環境を整える
- ・地域特性を生かした土地利用と快適な市街地形成を図る
- ・道路ネットワークと交通環境を整える

都市機能の充実と居住誘導の効果により、居住誘導区域内の人口密度が高まっていることを確認します。

期待される効果	現状値（H22年）	目標値（H37年）
b. 居住誘導区域内の人口密度の増加	54人/ha	64人/ha

※国勢調査の値を使用するため、現状値及び目標値の年次をH22年及びH37年とする。

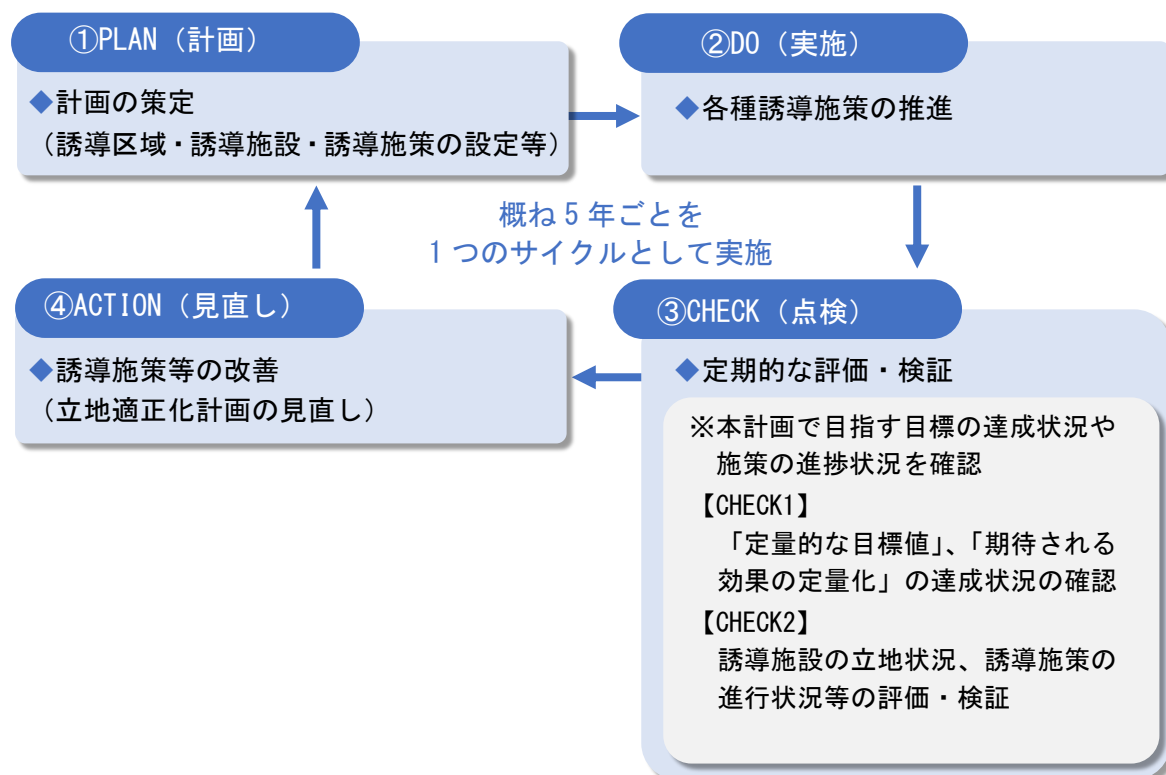
2. 進行管理の考え方

本計画の計画期間内（平成 30～39 年 [2018～2027 年] の 10 年間）においては、上位計画や関連計画の見直しとの整合を図りつつ、概ね 5 年ごとに数値目標の達成状況や誘導施策の進行状況等の評価・検証を行うものとします。

その検証により、必要に応じて誘導区域・誘導施設・誘導施策の見直しを行います。

PDCA サイクルの考え方に基づき、概ね 5 年を 1 つのサイクルとして適切な進捗管理を行いつつ、10 年後の目標年次に向けて継続的な取組みを行っていきます。

■ 図：計画の進行管理のイメージ



■ 図：指標設定のイメージ

